

# 活躍する専門技術者に聞く⑨

まちだ こうざぶろう

町田 浩三郎 氏(株式会社マッハエンジニアリング)



まちだ・こうざぶろう 60歳 東京都出身



会社設立当時の町田さん

第9回は株式会社マッハエンジニアリングの代表取締役である町田 浩三郎(60歳)氏を紹介する。

優秀な技術者であり、36年に渡り、50名の社員を率いる社長でもある町田氏より、これまでの歩みをご紹介頂いた。

## 1. 会社設立までの経緯

町田さんは昭和48年に東京都立港工業高等学校を卒業後、発電機やポンプ等の修理販売業を営む会社に入社した。その後、東京都内にある機械商社に転職し、内燃力発電装置等の修理に従事した。同社は川崎重工業株式会社のサービス代理店であった為、町田さんも川崎重工の付帯サービス業務に関する研修を受け、優秀な成績で修了し頭角を現していく。

日頃から目を掛けていただいた川崎重工幹部の方からの一言で転職が訪れる。「当時、川重さんはサービス代理店を全国展開中で『この先もサービスで食べて行くなら起業したらどうだ』と言われたんです。転職してまだ3年目で既に結婚もしていましたし、安定して生きるならそのままが良いかなでしょうけど……。でも人生一度きりですし、祖父も会社経営していましたから、起業しようと思いました。」

昭和54年、町田さんは24歳の時、「有限会社町田商会」を設立した。従業員は本人を含め3名での出発であった。「資格がないとサブコンさんにも相手

にされないの、主要な資格は取るべく必死で勉強しました。」

現在の社名の由来について、お聞きした。「これも起業を促された方から言われてね。私の姓名のローマ字表記『MACHIDA』から後ろ3文字を除いたのです。何でも迅速に対処しようという意味も込めて、マッハエンジニアリングにしました。」

町田さんは電気主任技術者資格のほか、昭和58年に自家用発電設備専門技術者(S、K、M、全三部門)の資格を取得、特種電気工事士の資格も取得している。平成20年度に国土交通大臣顕彰による「建設マスター(機械器具設置工)」を受賞した。

## 2. 技術者兼社長として

会社設立後の業務は多忙を極めた。発電設備の現地試運転、定期点検及び整備等を中心に年間400件以上の現場施工に従事した。「会社設立4年目、27~28歳の頃までは、土日も夜間も関係なかったです。徹夜も当たり前。社長だから資金繰りや労務もあるし、1年間で休めたのは5日間位だったかな。従業員は7~8名でした。」

仕事を選ぶ余裕は無かった。遠隔地での据付業務も数多く引き受けた。「八丈島のスーパーマーケットに設置した発電設備では、冷蔵用の電源として、非常用を常用に改造する仕事も引き受けました。また、伊豆諸島の灯台の発電設備では5kWの小出力設備でしたが、フルオーバーホールのために夏と冬それぞれ年2回、計4回行きました。真水が無いって聞いていたので、本土から飲み水を詰めたポリタンクを持参したりして、もうサバイバル状態でしたよ。」

### 3. 信用を積み重ねて

会社設立5年目、29歳の町田さんにとって特に印象に残っている物件がある。昭和59年、東京芝浦地区の地域冷暖房施設に設置されたガスタービン駆動常用発電装置（1,000kW×2基。現在は930kW×2基に更新）である。「私どもが携わった中では記念碑的な物件でした。試験運転業務を請け負いました。土日ぶっ通しで潮流データを取ったことを覚えています。本格的なコージェネ時代の幕開けを感じましたね。」

マッハエンジニアリングでは、放送通信施設においても施工実績を残している。某放送協会の発電設備もその一例である。「関東中心ですが、メーカーさんを通じ保守業務をさせて頂いております。発電設備の信頼性に対して、放送局のお客様からの要求レベルは非常に高いですね。」



放送局の常用ガスタービン発電設備

駅舎や車輛基地の発電設備の保守を通じ鉄道関係者とのお付き合いも多い。「JR系の工事会社様を通じ小型ディーゼルの保守契約をさせて頂いております。電力区のご担当者様からも直接に技術的相談を受けたりして、助言をしたりもしております。」

東日本大震災でも被災地の顧客の要求に応えた。「会社に3日間泊まり込んで、保守の現場作業員に対して、指示にあたりました。ある県立病院からは、『燃料が無くなったので助けて欲しい』って言われて、知人を通じ重油を入手することが出来たので、病院まで運んで給油しました。」

### 4. 個性重視の社員教育

現在の社員総勢50名のうち、25名を擁する技術社員の指導についてお聞きした。「自分を『機械器具屋』とか『電気屋』とか区分するのではなく、私は『発電設備屋』になりなさいとしております。また、当社はサブコンさんとお仕事することが非常に多い

ので、常に物事をふかんして、受変電設備から見た発電設備の望ましい在り方を強く意識して、日頃の業務に従事する様にとしております。」

具体的な社員研修の制度についてお聞きした。「マッハエンジニアリングでは、カワサキマシンシステムズさんのライセンス制度を活用しております。電験一種を取得した社員による勉強会も行っております。内発協の専門技術者講習テキストや内発協ニュース記事『自家発電質問箱』も研修資料として、抜粋して掲示したり活用していますよ。」



社内研修中の若手社員

「あまり『俺に着いて来い』のタイプではダメじゃないかな。社訓も特にありません。相手を誉めてモチベーションを上げるようにしないとね。各人の個性を尊重した社員作りを心掛けています。」

最後に今後の事業経営の抱負をお聞きした。「経営には、営業、資金繰り、人事、労務など、色々やるのが有りますが、マッハエンジニアリングでは、「技術力の発揮」が原点。これからも「技術立社」として、自家発電設備の点検整備を通じ、お客様に安心をお届けしたいと思っています。」



慎重に発電設備の据え付け作業を行う社員達

◆  
技術者兼社長としての半生を懐かしむように語られた町田さん。その柔和な表情の中にも、現場の第一線で活躍する技術者としての誇りと、36年間会社を率いてきた経営者としての胆力が垣間見えた。